

平成 28 年度 一般入学試験問題（Ⅱ期 B 日程）

# 国 語

## 注意事項

1. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
  - ①氏名欄  
氏名・フリガナを記入しなさい。
  - ②空欄  
「年月日欄」の右横の空欄に「国語」と記入しなさい。
  - ③番号欄  
受験番号を左詰めで記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
2. この冊子は、問題が 21 ページあります。
3. 試験中に印刷の不鮮明、落丁・乱丁あるいは解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出てください。
4. 受験番号が正しくマークされていない場合、採点できないことがあります。
5. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。たとえば、

10
----

と表示のある問いに対して 3 と解答する場合は、(例) のようにマークしなさい。

(例)

解答番号	解答記入欄
10	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

① 次の問に答えなさい。

問一 次の言葉の類義語をそれぞれ1から3の中から選びなさい。解答番号は、①は 、②は 、

③は

- |   |    |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① | 範囲 | 1 | 分布 | 2 | 分包 | 3 | 分野 |
| ② | 随時 | 1 | 時局 | 2 | 今時 | 3 | 臨時 |
| ③ | 了見 | 1 | 凶案 | 2 | 思案 | 3 | 提案 |

問二 次の言葉の対義語をそれぞれ1から3の中から選びなさい。解答番号は、①は 、②は 、

③は

- |   |    |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① | 故意 | 1 | 真意 | 2 | 過誤 | 3 | 過失 |
| ② | 独唱 | 1 | 合唱 | 2 | 暗唱 | 3 | 提唱 |
| ③ | 急激 | 1 | 緩行 | 2 | 怠慢 | 3 | 緩慢 |

問三 次の語の空欄に、それぞれ1から3の中から漢字を選んで補い、四字熟語を完成させなさい。解答番号は、

①は 、②は 、③は

- |   |      |   |   |   |   |   |   |
|---|------|---|---|---|---|---|---|
| ① | □横無尽 | 1 | 縦 | 2 | 着 | 3 | 従 |
| ② | 馬□東風 | 1 | 鼻 | 2 | 尾 | 3 | 耳 |
| ③ | 心□一転 | 1 | 期 | 2 | 機 | 3 | 気 |

問四 次の空欄に、それぞれ1から3の中から語を選んで補い、文を完成させなさい。解答番号は、①は 、②

は 、③は

- ① 彼は上司にその企画は断念するよう□□した。
- |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 文言 | 2 | 進言 | 3 | 遺言 |
|---|----|---|----|---|----|
- ② その報道は事実を□□して伝えている。
- |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 歪曲 | 2 | 婉曲 | 3 | 湾曲 |
|---|----|---|----|---|----|
- ③ 帰宅すると、庭にいたはずの犬が□□と姿を消していた。
- |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 哑然 | 2 | 忽然 | 3 | 判然 |
|---|----|---|----|---|----|

□ ② 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

ここで、近代的な「知」というものについて、少し遡って見てみましょう。

第一章の「私」の発見と同じような説明になるのですが、<sup>①</sup>それは、世界をとらえる主体が「考える我」に置かれてしまったあたりで発生してきます。

広義の人間の知性は、「真」「善」「美」の三つとかわっているはずですが、十八世紀のイマヌエル・カントのころまでは、この三つとかわる理想的な「全人格的な知性」のイメージがまだ生きていました。

カントは『純粹理性批判』『実践理性批判』『判断力批判』という、いわゆる「三批判」の著作を世に出しますが、そこでは「何を知ることができるのか」「何をなすべきなのか」「何を好ましいと思うのか」が、ともかくも円環を描いていました。ところが、それらは科学や合理化の進展とともに分裂を始めていくのです。

人びとは、<sup>②</sup>科学の中に至高の客観性を見出し、その因果律によって世界をまとめていきました。それによって、かつて世界に意味を与えていた伝統や俗信、宗教や形而上学は、「I」としてどんどん科学の世界から駆逐されていきました。

科学の因果律だけで自立した世界は、<sup>③</sup>カントが考えたものとは明らかに違う世界です。カントは、人間の頭上に天空の法則があり、もう一つ、それに匹敵するすばらしく尊い世界が人間の内側にもあると言いました。前者は自然の法則であり、後者は人間の道徳律のようなものです。

□ ②、時代はそれらの連関を壊して進みました。先ほどの医学や水車の例のように、科学が教えてくれることは、人間らしい価値観や道徳観念といったものとは無縁のところにあるのです。

このような流れの中で、十九世紀から二十世紀にかけて、多くの学者や思想家が人間の知性と人間社会の行方を必死に探りはじめました。当時のヨーロッパではニューサイエンスの実験のようなものが盛んに行われたのですが、たとえば、エドムント・フッサールの現象学などもそうです。『ヨーロッパ諸科学の危機と超越論的現象学』は、現象学こそ、科学をもう一度、人が何を信じ

たらしいのかという世界に引き戻すものだという、彼なりのたいへんな決意があらわれた試みでした。

しかし、ウェーバーはフッサールとは違って **III** で、果てしない科学の進歩の中で、知性の専門分化、断片化が進み、人間がどう生きてほしいのか、どう行動したらいいのか、何を信じたらいいのか、といった切実な「意味問題」が、ますます非合理的な決断の領域に押しこめられていくと予想しました。

ウェーバーが予想したのは、言ってみれば「**唯脳論的世界**」<sup>④</sup>です。放縦で、人間中心で、脈絡のない情報が洪水のように満ちた世界。それは、自然の営みとは無関係に、自分勝手な人間の脳が恣意的に作り出す世界です。

まさにいまわれわれのまわりにある世界ではないでしょうか。たとえば、自分の部屋のパソコンで、遠い外国でいま起こっている事件の現場を見られるなら、物理的な **IV** や国境は意味がなくなりますし、二十四時間いつでもお金が下ろせて買える物ができるなら、朝昼晩の区別も無用になりかねません。また生命維持装置によっていつまでも人間を生かせるのであれば、**V** の意味もなくなってくるかもしれません。唯脳論的世界が現実になっているのです。

このような中で、私たちはどのような知性のあり方を信じ、あるいは選びとっていったらいいのでしょうか。

私は、考え方としては二つの方向性があると思います。

⑤ 一つは、『夢十夜』の船で運ばれていく男の話のように、われわれはもう後には戻れない、「何を知るべきなのか」「何をなすべきなのか」「何を好ましいと思うのか」といった事柄がハーモニーを奏することなどありえないと受け入れたうえで、貪欲どんよくに知の最先端を走ってみる事です。これは相当の「力業」ですし、「知ってるつもり」だけではすまない、決然とした覚悟が必要でしょう。ちなみに、ウェーバーは、「知」というものが **VI** から切り離されて専門分化し、そのことで逆に個人の主観的な **VI** が客観的に根拠づけられなくなり、その結果、諸々の対立する **VI** が永遠にせめぎあうことを「神々の闘争」と呼びました。

彼は、そうなっていく時代の運命に耐えられない者は古い教会の温かい懐にでも戻ればいい、しかしそうすることで「知性」を

生け贄にする犠牲は避けられないと言いました。ウェーバーは、そうした運命をぎりぎりのところで受け入れ、とことん悩みぬくことで、「知」の臨界点に到達しようとした。

これに対して、私は もう一つの方向性を探ってみたいと思います。人類学者のレヴィ＝ストロースが言う「プリコラージュ」的な知の可能性を探ってみる事です。プリコラージュとは「器用仕事」とも訳されますが、目前にあるありあわせのもので、必要な何かを生み出す作業の事です。私はそれを拡大解釈して、中世で言うクラフト的な熟練、あるいは身体感覚を通じた知のあり方にまで押し広げてはどうかと考えています。

科学万能の流れの中で、迷信や宗教などは駆逐されていきましたが、それらは完全に消えたわけではなく、ニーチェ的に言うところの「背面世界」となつてこの世の片隅にちりばめられて残りました。その中に「土発的」な知（自然の移ろいの中に生きて、そこから発するような知）の伝統がささやかに息づいていました。

それらは一時絶滅寸前までいったのですが、いままた少しずつ見直されているような気がしています。

じつは、このことを考えるたびに、私は自分の母のことを思い出すのです。母は、言わば前近代的な宗教の伝統や習慣を守って生きていた人でした。四季の行事、歳時記的なこと、人の生き死に、成長、衰退への考え方など、そのありようはまるで旧暦の世界のようでしたが、驚くべきことに、それは循環を繰り返している自然の摂理とぴたり一致していました。ですから、人間が本来に知るべきことは何なのかを考えるとき、そこにもヒントがあるような気がしています。

たとえば、この時期の海に入つてアサリを獲ると、砂が少なくて身が肥えたものが多いとか、この時期に薬草を食べると身体にいいといった知恵です。こうした土発的な知も見直されていいのではないのでしょうか。

私たちの社会は、いまままでの境界が抜け落ちたような状態になっていて、そこに膨大な情報が漂っています。たしかに、人間の脳というのは際限がなく、放置しておく限りなく広がって、得手勝手に ポーターレスな世界を作り出していきます。

しかし、現実の肉体や感覚には限界があります。だから、反対に、自分の世界を広げるのではなく、適度な形で限定していく。その場合でも、世界を閉じるのではなく、開きつつ、自分の身の丈に合わせてサイズを限定していく。そして、その世界にあるも

のについては、ほぼ知悉できているというような「知」のあり方――。

それは「反科学」ではありませんが、ある意味では「非科学」でもあります。が、そういうあり方があってもよいのではないのでしょうか。

人は何を知るべきなのか、という問題は、どんな社会が望ましいかということともつながっています。いずれにしても、われわれの知性は何のためであって、われわれはどんな社会を目指しているのかということ、考え直す必要があるのではないのでしょうか。

(姜尚中『悩む力』)

※出題の都合上、一部改変有り

問一 傍線①「それ」は何をさすか。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は 

13
----

- 1 世界をとらえる主体
- 2 「私」の発見
- 3 人間の知性
- 4 考える我
- 5 近代的な「知」

問二 傍線②「科学の中に至高の客観性を見出し、その因果律によって世界をまとめていきました」とは、どういうことか。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 科学的客観性のみを重視した。
- 2 非科学的な見方のみを重視した。
- 3 科学性と非科学性のバランスを重視した。
- 4 知性と感性のバランスを重視した。
- 5 知と考える私の因果関係を重視した。

問三

I に入る最も適当な語を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 非人間的
- 2 非経済的
- 3 非政治的
- 4 非伝統的
- 5 非科学的

問四 傍線③「カントが考えたもの」とは何か。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 非科学的なもので構成される世界

- 2 科学の論理によって構成される世界
- 3 人間の感性によって創造される世界
- 4 科学と人間性が調和する世界
- 5 至高の客観性が追求される世界

問五

II

に入る最も適当な語を、次の1から5の中から選びなさい。

解答番号は

17

- 1 したがって
- 2 さて
- 3 しかし
- 4 さらに
- 5 ところで

問六

III

に入る最も適当な語を、次の1から5の中から選びなさい。

解答番号は

18

- 1 楽観的
- 2 悲観的
- 3 積極的
- 4 消極的
- 5 能動的

問七 傍線④「唯脳論的世界」の説明として最も適当なものはどれか。次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 多面的に検証されて作り出された世界
- 2 よく考えられ人の心を執着させる世界
- 3 人間の脳が思いつくままに作り出す世界
- 4 他人のことに配慮して作り出された世界
- 5 知性の専門分化、断片化が進んだ世界

問八 に入る最も適当な語を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 距離
- 2 時間
- 3 直感
- 4 測定
- 5 知性

問九 に入る最も適当な語を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 時
- 2 老

- 3 病
- 4 死
- 5 神

問十 傍線⑤「一つ」の方向性として、最も適当なものはどれか。次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 敬虔な宗教心を持つこと
- 2 無心の世界に返ること
- 3 古い時代に返ること
- 4 徹底して知的になること
- 5 貪欲に夢を追い求めること

問十一 に入る最も適当な語を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 自然
- 2 現実
- 3 生命
- 4 宗教
- 5 価値

問十二 傍線⑥「もう一つの方向性」として、最も適当なものはどれか。次の1から5の中から選びなさい。解答番号

は

- 1 極度に科学性を重視する方向
- 2 土発的な知を見直す方向
- 3 厚い信仰心を重視する方向
- 4 自然現象を説明する方向
- 5 迷信や宗教を重視する方向

問十三 傍線⑦「そこ」が表しているものとして、最も適当なものはどれか。次の1から5の中から選びなさい。解答番号

は

- 1 近代的な習慣
- 2 科学的な姿勢
- 3 功利的な生活
- 4 虚無的な態度
- 5 土発的な慣習

問十四 傍線⑧「ボーダーレスな世界」とは、どのような状態か。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番

号は 

26
----

- 1 世界を知悉できた状態
- 2 道徳性をなくした状態
- 3 境界がなくなった状態
- 4 時間に束縛された状態
- 5 科学万能とされる状態

三 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

「<sup>①</sup>普段着のファミリー」というと、素朴で正直で、飾りつけのない、好ましい家族のように受けとめられるかもしれないが、実は違う。ぼくがここで、表題にしてまで書くこととしている「普段着のファミリー」とは、社会に対しての適応性や、他人に対する最低必要な<sup>②</sup>緊張感や、時と場所を全く心得ない家族のことである。

もちろん、余所行きと普段着という区別での、着衣の普段着のことも含まれている。そもそもは、ある時ふと、伊豆から東京への移動の途中で見かける人々のことを、いつから日本人は普段着で旅行するようになったのだろうか、疑問に思ったことから発している。

思い出してみてほしい。かつては、家と社会という意識が厳然としてあって、家から一步出るとそこはもう社会であると思っていた。家の中では相当にダれた姿をしていますが、煙草を買いに出掛けるだけで社会用に、ジャケットの一枚も羽織ったものである。

<sup>③</sup> ぼくの父は必ず中折れ帽をかぶった。

家からほんの数メートル、同じ町内でもそうであったから、他町村へ出掛けたり、ましてや東京へ出るとなると晴れ着に<sup>ア</sup>近い物を選んで、最大の誠意を示し、同時に社会という他者の垣塙<sup>かき</sup>の中で緊張をもって過せるように、覚悟を決めたものである。

それは実に面倒なことであったが、これが<sup>イ</sup>よかった。社会には自分で押し通せないことが<sup>ウ</sup>いっぱいあり、時には他者に自分を合わせることも必要だと、教えられたからである。また、人間というのは個々大した存在ではないけれど、社会を尊重し、味方に引き入れることで、つまり着<sup>き</sup>更<sup>が</sup>える毎<sup>ごと</sup>に<sup>エ</sup>大きく見せることが出来るのだともわかった。それを今、多くのファミリーは<sup>④</sup>得々<sup>と</sup>として放棄しているのである。

普段着の過信は、<sup>オ</sup>たぶん、マイカーを持つようになってからのことだと思う。人々は普段着で移動するようになった。自分の家の門前から、サンダル履きのまま東京都心へ直入出来る。楽で、便利であろうが、不法さのまま家族が移動し、不法さのまま他人の社会を踏むかと思うと、実に空恐ろしい感じがするのである。ファミリーはしっかりと不法法の同志となり、自由を満喫

する。満喫する方がいいだろうが、される方はたまったものではない。

⑤ ここでいう「自由」とは、他人の自由を奪う自由という意味で、戦後日本人が実践した自由とはこれだけである。他人の自由を奪う自由、これが普段着の精神性に取りついて、<sup>⑥</sup> 傍若無人の自由として蹂躪するるのである。

たかが余所行きと普段着、着る物の選択で何ほどのことがあろうかと思われるかもしれないが、メリハリのつかない生活感が、メリハリのつかない社会観や人生観に繋がるのである。「個人」と「家族」と「社会」というたった三つの顔が出来ない人たちに、秩序や節度を期待することは無理であろう。個の過信が社会を崩す。そのメリハリを、どこで失い、どこで放棄し、どこで平気になってしまったのであろうか。

ファッションや行動に自由が持ち込まれて、<sup>a</sup> 喝采を博したのは、ついこの前のことである。ぼくもその時は、大いに手を打ち鳴らした。しかし、この自由を使いこなすには、相当に練り上げられた社会人としての教養、場を心得ることの出来る品性と、それぞれが内面に抱いたタブーが必要であった。それを考えないで使い放題の自由は、伝統も国情も個性もすべて打ち砕き、何でもありの、何でもなしにしてしまったのである。

ぼくがまだ若かった頃、<sup>⑦</sup> 東京という都市は大いなる踏み絵を強いる社会であった。長く東京生活をした後でも、しばらく離れ、また東京へ踏み込む時には、緊張を感じた。ここで生きられるだろうか、ここで認められるだろうかと何度も思った。東京とは、とても常態では勝負出来ない社会であったからである。だから、ぼくは、九州の実家から東京へ帰って来る時、小田原を過ぎたあたりから、ピシャピシャと頬を叩いて東京の顔をつくり、社会に立ち向かう覚悟を決めたものである。

これももし、マイカーであったなら、そして、まるまるの普段着であったならどうであろうか。そんなことをする必要もなく、I 東京へ入る。その代わり、社会を意識してみる機会を失ったに違いないのである。

普段着のファミリィは、なぜ普段着で他人だらけの社会の中へ入って行くことが出来るのであろうか。個の顔で社会に立ち向かうのであれば、その度胸と勇氣に感心してみせようが、社会の大きさを個のレベルに縮小し、恐れを知らず、行儀を知らず、傍若無人になるのであれば、教育としては最悪である。社会の大きさと、手強さと、人生には不可能の方が多いことを教えるのが教育

で、それには普段着では役目を果たさないと知るべきなのである。

国の問題点を語る時、多くの人は、政治がどうの、経済がどうのというが、ぼくは国民の社会観の欠落と、それによる行儀の悪さ、公德心のなさが、最大の問題点だと思う。

行儀を問題にされないことは捨てられたのと同じことで、ぼくはつくづく、今の子どもたちが可哀相かわいそうに思える。手をかけただけ可愛い間が子どもで、手をかけても可愛くなくなれば、育ち過ぎたペットのように困惑くわくする親を見かける。家出をする子どもがおり、さぞや心配だろうと思うと、不快のタネが見えなくなつてどこか安堵あんずしている親の顔があつたりする。(中略)

今、大人それぞれがそれぞれの問題として、自分の生き方を変えなければならぬ時に来ている。政治家に何とかして下さいとか、法律を早く変えて下さいとか、待っている時ではない。一人一人である。一人一人が醜みにくさと愚おろかさを見出し、子どものための生きるサンプルになろうと覚悟を決めなければならぬ。普段着のことを長々と書いたのはそのためである。

政治家も悪いかもしれない。システムにも欠点があるだろう。しかし、政治家もシステムも、ぼくらが知恵と勇気で取り替えることが出来る。だが、市民とか国民とか、ぼくら普通の生活人を総取替えするわけにはいかない。だとすると、市民や国民が自分自身を甘やかさずに変えるしか、救われる道はないのではないか。

ぼくらは、「自由」も「平和」も「民主主義」も「経済大国」も、全部使い方を失敗した。宝の持ち腐れどころか、多くは徒あたとなつたのである。すべて光り輝く言葉の筈はずなのに、不作法さ、**A** 遠慮さ、**B** 常識、恥知らず、という結果しか出せなかった。

しかも、それで楽しいのならないが、閉塞感びさくかんに満ちた**C** 機嫌きげんな社会である。

もう一度、正直者の働き者、**D** 器用な頑固者の原点に戻ってみよう。それしかない。

嗚呼ああ！ 気張り過ぎた。切ない。

さて、政治の社会ではマニフェストという具体的公約とやらが流行だが、人それぞれ、自らのマニフェストを作成してみたらど

うであろうか。何をなして、どう生きるか、何を信じて、誰を幸福にするかである。

方法は、そう、<sup>⑧</sup>宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」を下敷きに、替え歌の要領でやればいい。一本の道と自身の姿が見えるかもしれない。

(阿久悠『普段着のファミリー』)

問一 傍線①「普段着のファミリー」とはどのようなファミリーのことか。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。

解答番号は

- 1 他者の垣塙である社会に自分たちを合わせるために、精一杯努力している家族
- 2 普段着を着たまま、サンダル履きで東京都心に乗り込んでくる勇気ある家族
- 3 自分の主張を他者に押しつけることなく、自然体で社会と向き合っている家族
- 4 個人の主張が社会で常に通るわけではないということを自覚して行動する家族
- 5 家の中と社会との差を自覚しないまま、不作法に他人の中へ入っていく家族

問二 傍線②「緊張」の対義語として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 安息
- 2 柔軟
- 3 穏便
- 4 緩和
- 5 弛緩

問三 傍線③「ぼくの父は必ず中折れ帽をかぶった」とあるが、父はなぜ帽子をかぶったのか。最も適当な理由を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は 

29
----

- 1 外へ出かけるときにいちいちジャケットを羽織るのが面倒だったので、そのかわりに帽子をかぶればよいと考えていたから。
- 2 家の外に出るときには、そこが家庭内とは違う場所だと意識し、それにふさわしいきちんとした格好をしなければならないと考えていたから。
- 3 家の中のだらしない服装の上にただジャケットを羽織っただけでは、かえって格好が悪くなると考えていたから。
- 4 家から一步でも出ればそこはもう社会なのだから、外出の際には常に晴れ着を着て格好をつけなければならないと考えていたから。
- 5 外出の際にジャケットを羽織る人が多かった時代に、自分だけが帽子をかぶることによって、他人とは違うセンスを持っていることを主張したかったから。

問四 傍線ア「近い」、イ「よかつ」、ウ「いっぱい」、エ「大きく」、オ「たぶん」の品詞の組み合わせとして、最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は 

30
----

- 1 アとイエとウとオ
- 2 アイとウとエとオ
- 3 アエとイとウとオ
- 4 アイエとウとオ

5 アエオとイとウ

問五 傍線④「得々として」とはどういう意味か。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

31

- 1 得意そうな顔つきで
- 2 わくわくと胸を弾ませて
- 3 十分納得した上で
- 4 是非もわからないままに
- 5 引っ込みが付かなくて

問六 傍線⑤「ここでいう『自由』」とは、具体的にどのような行動を指しているのか。例として最も適当でないものを、次の1か

ら5の中から選びなさい。解答番号は

32

- 1 携帯電話を使って、いつでもどこでも友人との会話を楽しむ。
- 2 はしゃいで店内を駆け回るわが子を眺めながら、レストランで食事をする。
- 3 駐車場が満車だったので、他人の家の門前に、一時的に駐車する。
- 4 禁煙席でなくても、隣の席の人に声をかけてから煙草を吸い始める。
- 5 学校に遅刻しそうになったので、電車の中でパンと牛乳の朝食をとる。

問七 傍線⑥「傍若無人」とはどういう意味か。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号

は

- 1 見ている人がもどかしくなるほどのんびり行動すること
- 2 あきれかえるほど度が過ぎていること
- 3 自分の思い通りに、勝手気ままにふるまうこと
- 4 まわりのことを気にしてためらうこと
- 5 落ち着きはらって、ものに動じないこと

問八 傍線a「喝采」、b「困惑」、c「安堵」、d「閉塞」の読みの組み合わせとして、最も適当なものを、次の1から5の中

ら選びなさい。解答番号は

- |   |           |           |          |           |
|---|-----------|-----------|----------|-----------|
| 1 | a    かつせい | b    いんわく | c    あんと | d    へいさい |
| 1 | a    かつさい | b    こんわく | c    あんど | d    へいそく |
| 1 | a    かんせい | b    いんわく | c    あんど | d    へいかん |
| 1 | a    かんせい | b    こんわく | c    あんと | d    へいさい |
| 1 | a    かつさい | b    こんわく | c    あんと | d    へいそく |

問九 傍線⑦「東京という都市は大なる踏み絵を強いる社会」とはどういうことか。最も適当なものを、次の1から5の中から

選びなさい。解答番号は

- 1 東京は人々に緊張を強いる都市であり、かなりの覚悟がないとそこに踏み込むことはできないということ
- 2 東京は日本の首都なので、そこで生活する人々にも、それにふさわしい教養や品性が求められるということ
- 3 大都会東京はその大きさと人々を圧倒し、そこで生活しようとしている人々の勇気をくじいてしまうということ
- 4 東京に足を踏み入れる人々は、東京に対して本当に愛着を持っているかどうかを、常に試されているということ
- 5 東京にはあまりにも多くの人が集まっているので、周囲の人々を蹴落とさないと生き残ることができないということ

問十

I

にあてはまる最も適当な語を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

36

- 1 悶々と
- 2 肅々と
- 3 敢然と
- 4 泰然と
- 5 悠々と

問十一

A

から

D

にあてはまる語の組み合わせとして、最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。

解答番号は

37

- |   |        |        |        |        |
|---|--------|--------|--------|--------|
| 1 | A    無 | B    非 | C    不 | D    無 |
| 2 | A    不 | B    無 | C    無 | D    無 |
| 3 | A    不 | B    無 | C    不 | D    無 |
| 4 | A    無 | B    非 | C    不 | D    不 |
| 5 | A    不 | B    非 | C    無 | D    不 |

問十二 傍線⑧「宮沢賢治」の作品を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

38

- 1 『蜘蛛の糸』
- 2 『銀河鉄道の夜』
- 3 『城之崎にて』
- 4 『三四郎』
- 5 『舞姫』

問十三 筆者はこの文章で何を言おうとしているか。最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号

は 39

- 1 最近の多くの日本人は、何の気負いもなく普段着で社会に入っていくための、並々ならない度胸と勇氣を持っている。
- 2 日本の国をここまで墮落させたのは、行儀をわきまえない子供たちであり、子供の意識を変えない限り、日本には明るい未来がない。
- 3 現在の日本における最大の問題点は、国民の社会観の欠落であり、われわれはそれを解決するために、生き方を変える努力をしなければならない。
- 4 日本の抱える問題の重大さを、国民一人一人が自覚するべきであるが、政治家も個人任せにせず、真剣に問題に取り組むべきである。
- 5 政治を政治家だけのものだと考えず、国民一人一人がマニフェストを作成し、より良い政治が行われるよう誠実に日本の未来と向き合うべきである。

(以下余白)